

業界の

声



● 協同組合山梨県ジュエリー協会

理事長 松葉 惇氏

業界の現況は？

山梨県は300年以上前から宝飾産業が盛んであり、世界でも5本の指に入るといわれるほどの宝石の町です。しかし、全盛期と比較すると売上高が40%減少するなど非常に厳しい状況となっております。これは、世界的なジュエリー不況の他に、国内における石(加工前)と宝石(完成品)の輸入額が2007年に初めて逆転したように、宝石加工が海外(主に中国)に移行したことが原因として考えられます。また、地金の金額が大幅に高騰しているため、赤字経営の業者が急増し、多くの宝飾業者が廃業に追い込まれております。

今後の展開は？

日本は世界でも有数のジュエリー消費国であるため、国内の顧客に目を向けることが先決です。また、ジュエリー業界は加工業であるために、卸し先である小売業者との関係性は考慮するものの、実際にジュエリーを購入する消費者のニーズには無頓着なケースがあります。そのため、山梨の宝飾業界では産地ブランドプロジェクトとして「koo fuプロジェクト」を立ち上げました。「koo fu」(クーフー)とは、商品と産業が取り組む事業全体を示す産地ブランドとして考えられ、ダイレクトに甲府をイメージせず、無国籍のような響きとして表現されています。

「koo fu」プロジェクトでは、山梨の産地特性を活かした素材、技術及びデザイン等でブランド価値を高めるため「koo fuコレクション」の開発などを積極的に行っております。すでにオリジナルプラチナ合金「koo fu Pt950」などを使用したものを2008年度コレクションとして発表しており、多くの消費者から「koo fu」ブランドの宝石が買いたいと思わせるようなブランド価値向上に取り組んでおります。



「Koo-fu」コレクションのロゴ
(白地に青字)